

収録文書について

収録文書について

山口家には、通称一万点を越える古文書、軸物、版本書籍、漢籍等が保存されている。

所蔵者山口匡一氏は、家系図によると江戸時代の左司右衛門恒幸から数えて七代目に当る。当家は、江戸時代には旗本間部詮之（将軍徳川家宣・家継の側用人間部詮房の弟）の知行地である上粕屋村の領地代官役として村中の用務を執り行い（「勤め向きの儀、以来地御代官役と相心得、万端御用取り扱い申すべきこと」山口家文書、「子十一月 口達覚」）、住宅は「御役所」と称するように（「住宅の儀、向後右御役所と唱申すべく候」山口家文書、「子十一月 口達覚」）処遇されていた。明治の初期には総代名主、戸長職、その後は大住郡・淘綾郡長、第一回帝国議会衆議院議員を歴任した家である。

このような家柄をもつ当家には、神奈川県史編集室、当公文書館、伊勢原市史編纂室、幾徳工業大学（現在、神奈川工科大学）北湘近代史研究会が調査した文書群のほかに、戦後間もなく財団法人農政調査会が保管し、平成19年（2007）に農林水産政策研究所から返還された山口家文書がある。

平成19年度の資料所在調査において、それまで実施してきた地域2町のうち1町の調査がほぼ終了したこと、資料の保存状態、所蔵者及び所蔵者が理事長を勤める「特定非営利法人雨岳文庫を活用する会」から調査、整理、マイクロ撮影の依頼を受けたことから、返還されたこの文書を「農林水産政策研究所返還山口家文書」と総称して調査することとなった。

本文書は、凡例に記載のとおり大型中性紙の整理箱9個に分納されていた。この文書には、文書の塊と点数をリスト化しただけの、項目と数量記載の「農地改革資料古文書目録」（概要目録数、1,699冊・通）がある。当公文書館では、この「農地改革資料古文書目録」を基にして箱ごとに分類項目一覧表を作成し、整理を開始した。整理対象資料総数は、約4,300点と推定した。調査は、平成19年度から平成22年度の間4年計画で行った。当該資料の調査は本年度で終了し、現在目録・撮影等の整備に当たっている。

調査開始からマイクロ撮影を実施し、紙焼きプリントして製本が出来た部分は、当公文書館で閲覧利用に供されている。

本冊の目録作成（パソコン入力）は、主として中村崇高が当り、上田良知がこれを補佐した。全体の構成及び調整は、郷土資料グループ長佐々木徹が行った。（執筆、田島光男）

本冊は、前年度刊行27集まで「神奈川県古文書資料所在目録」の書名で発行してきたが、収録資料の時代や媒体を幅広く捉えることを目指して28集から名称を「神奈川県歴史資料所在目録」とした。

神奈川県歴史資料所在目録

第28集

編集発行 神奈川県立公文書館
〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1
☎ (045) 364-4456、4463
FAX (045) 364-4459

発行日 平成23年3月31日

印刷所 中川印刷株式会社
〒231-0036 横浜市中区山田町7-1
☎ (045) 261-2101
FAX (045) 261-2105

